

[寄稿・インタビュー]

日本・スリランカ外交関係樹立70周年に際するスリランカ主要紙への林外務大臣寄稿（令和4年1月1日）

アーユーボーワン、ワナッカム（注：スリランカ主要2民族の言語で「こんにちは」の意）

本日始まる2022年は日本・スリランカ外交関係樹立70周年であり、これを皆様とともにお祝いできることを大変うれしく思います。日本とスリランカは文化的、宗教的に多くの共通点を有し、古い交流の歴史を有します。それらを土台に、過去70年間にわたって、両国は多くのことを成し遂げました。私は、日本が高速道路、病院、水力発電所の建設、地雷除去など、様々な協力を通じてスリランカの発展のお手伝いをしてきたことを大変誇りに思っております。近年のスリランカの経済発展を受けて多くの日系企業が進出し、今やその数は104に上っています。

スリランカは日本にとって、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序をインド太平洋地域に構築する、すなわち「自由で開かれたインド太平洋」を実現するための重要なパートナーです。日本としては、引き続きスリランカと協力し、インド洋のハブとしてのスリランカの持続可能な発展に貢献していきたいと思っています。

我が国は、戦後日本の国際社会への復帰に際するジャヤワルダナ元大統領の支援、また、2011年の東日本大震災の際にスリランカが温かい支援の手をさしのべてくれたことを決して忘れません。2004年にインドネシア・スマトラ島沖で発生した大規模な地震による津波災害の際など、友人であるスリランカが困難に直面した際には日本も積極的に支援を行ってきました。今回の新型コロナウイルス感染症の流行に際しても、これまでに146万回分のワクチン支援ができたことを大変嬉しく思っています。新型コロナウイルスを巡る状況がいち早く改善し、以前のように両国の国民や要人の往来ができるようになることを願っています。

両国の外交関係樹立70周年の特別な年である今年が両国にとって実り多いものとなること、そしてこの機会に両国の関係が国民レベルも含め一層強化されることを確信しています。

ストウーティ、ナンドウリ（注：スリランカ主要2民族の言語で「ありがとう」の意）